

平成29年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
林産部門

地域住民の山づくりによる収益が地域づくりに還元

○氏名又は名称 東河内生産森林組合（代表 長野 豊彦）

○所在地 兵庫県宍粟市

○出品財 経営（林業経営）

○受賞理由

・地域の概要

宍粟市は、兵庫県の中西部に位置し、一級河川である損保川が流れており、森林は県西播磨地域の重要な水源林となっている。林野率89.7%、人工林率73.2%で、古くから林業で栄えた町である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

東河内生産森林組合は、昭和46年に組合員199名、保有森林750ha（地区の38%の面積）として森林経営を開始した。森林資源の充実とともに平成19年より利用間伐に取り組み、高密度路網の配置による低コスト化を実施し、収益を上げている。また、カーボンオフセット・クレジット制度を活用した収入も確保し、組合員への配当も実現している優良組合である。

・受賞者の特色

（1）地域とともに歩む林業経営

森林経営で発生する余剰金は、分収契約を結んでいる自治会に配分され、地域のイベントや女性の特産品づくり等の地域活動に活用されており、地域住民の山づくりが、その収益を通じて地域づくりに還元されている。

（2）路網整備における新規工法（鉄鋼スラグ舗装）の取組

路網整備の際、鉄鋼製造に伴い生成される「鉄鋼スラグ」を用いた簡易舗装工法に兵庫県下で最初に取り組んだ。この工法は敷砂利程度の費用で路面を舗装でき、施工後は草刈り等が不要となることから、長期間に渡って維持管理費用が低減できることを実証した。本工法はその有効性が認められ、県の補助対象となっている。

（3）^{りんが}輪掛け（自然乾燥）の実施による木材の高付加価値販売

夏に伐採を行った木材（丸太）を、標高650m以上の土場で1年間乾燥させ、伐採時から含水率を約半分程度まで落とすことにより、付加価値が高まり、1m³当たりの単価で市場販売実績より5千円程度高く販売している。

・普及性と今後の発展方向

地域住民が森林に関わって管理・経営する手法として、生産森林組合による共同管理は推奨されるべき方式であり、当生産森林組合はその成功例として評価されるとともに、山づくりによる収益が地域づくりに還元されている優良事例である。